

## 引用文献

- 安達 知子, 佐藤 英貴, 桧垣 博, 瀧澤 慎, 星野 佑季, 川名 有紀子, 竹田 義治, 中山 摂子, 坂井 昌人, 中林 正雄 (2006). 薬物療法の実際と問題点. 日本産婦人科学会雑誌, 58(9), 161-163.
- 馬場 聡, 小松 篤史 (2015). 妊娠 34 週以降に塩酸リトドリンを中止した症例における, 分娩時期に影響を与える因子に関する検討. 産婦人科の実際, 64(13), 2083-2087.
- Baumgartn K (1977). Results of tocolysis in threatened premature labor. Recent advances on beta' mimetic drugs in obstet-rics, International symposium, Societa, Editrice Universo, Roma. 71.
- Claudio G Sosa (2015). Bed rest in singleton pregnancies for preventing preterm birth. Cochrane Database of Systematic Reviews. Retrieved from <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/14651858.CD003581.pub3/full>
- 長南 記志子, 加来 久美, 関島 英子 (1991). 切迫早産で長期臥床が必要な妊婦の看護. 助産婦雑誌, 45(3), 192-200.
- 林 稚佳子, 植木 聖美 (2010). 安静臥床妊婦の筋力低下の現状. 新潟市民病院医誌, 31(1), 9-12.
- 平野 藍, 鈴木 雅代, 高橋 美保, 磯部 洋子, 山本 智美 (2005). 切迫早産による長期安静入院者の気持ち-不安の分析を通して-. 母性衛生, 46(3), 116.
- 伊藤 昌春, 草薙 康城 (2002). 研修医のための必修知識 異常妊娠, 日本産婦人科学会雑誌, 54(1), 1-9.
- 健康保険法, 第 88 条 1 項, (1922)
- 亀山 良宣, 上原 茂樹, 岡村 州博 (2001). 切迫早産. 周産期医学, 31, 178-179.
- 公益社団法人日本看護協会 (2014). 訪問看護アクションプラン 2025, 5.
- 小林 隆夫 (2006). 妊娠と血栓症. 成人と生活習慣病, 36(2), 165-170.
- 久保 隆彦, 青木 宏明 (2012). 我が国の早産の現状と問題点. 産婦人科の実際, 61(4), 537.
- 小平 厚子, 岡田 恵, 橋野 恭子 (2003). 長期に安静療法を受ける妊婦の身体, 心理的変化-体力の自覚の変化を中心に-. 母性衛生, 44(3), 132.

厚生労働省 (2016). 第6回周産期医療体制のあり方に関する検討会 資料2, Retrieved from <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000134646.pdf>

厚生労働省(2011). 訪問看護について, Retrieved from <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001uo3f-att/2r9852000001uo71.pdf>

厚生労働省 (2014). 人口動態調査 妊娠期間別にみた年次別出生数及び百分率, Retrieved from <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001137964>

厚生労働省 (2015). 人口動態統計 母子保健の現状, Retrieved from <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001oujo-att/2r9852000001oumv.pdf>

厚生労働省 (2012). 告示第八十一, Retrieved from <http://iryo.kk-mic.co.jp/information/file/ETC-240305.pdf>

厚生労働省告示第63号(2008). 訪問看護療養費に係る訪問看護ステーションの基準等の一部改正, 52

久米 浩太, 田平 陽子 (2008). 退院後の母乳育児支援 産後母子訪問の試みを中心に. 母性衛生, 49(3), 280.

Medical University of Bialystok, Bialystok University of Technology (2015). Early diagnosis of threatened premature labor by electro hystero-graphic recordings-The use of digital signal processing. *Biocybernetics and Biomedical Engineering*, 36, 302-307.

Lockwood, CJ (1999). Stress-associated preterm delivery: the role of corticotrophin-releasing hormone. *American Journal of Obstetrics and Gynecology*, 180(1), 264-266.

Lu Li, Lixia Dou, Ping Chung Leung, Chi Chiu Wang (2012). Chinese herbal medicines for threatened miscarriage. Cochrane Database of Systematic Reviews. Doi: 10.1002/14651858.CD008510.pub2

真野 浩志, 井口 はるひ, 正田 奈緒子, 中原 康雄, 緒方 直史, 芳賀 信彦 (2014). 産科周産期のリハビリテーション-切迫流産を起こした妊婦の運動療法-. リハビリテーション医学, 55(7), 445-451.

- 松浦 志保, 清水 嘉子, 赤羽 洋子, 宮澤 美知留, 松原 美和 (2012). Bed Rest 治療中のハイリスク妊婦に行うストレッチングの自律神経活動および気分への影響. 長野県看護大学紀要, 14, 1-11.
- 三品 浩基 (2016). 臨床研究の倫理的配慮の要点, 外来小児科, 19(1), 76-81.
- 三浦 広志 (2012). 切迫流・早産. ペリネイタルケア, 31(12), 10-14.
- 水野 由香, 松島 久美子, 清田 裕子, 清田 宗利, 坂梨 京子 (2012). 切迫流早産退院時の家族への手紙, 熊本県母性衛生学会雑誌, 15(1343-9340), 5-10.
- 村上 好美 (2005). なぜ, 看護手順が必要なのか 標準化と質向上の視点から. 看護, 57(8), 38-43.
- 中井 章人 (2009). 早産とは—早産の定義と概念, 産婦人科治療, 98(4), 329-336.
- National Institute for Health and Care Excellence (2015). Preterm labor, Retrieved from <https://www.nice.org.uk/guidance/ng25/chapter/Recommendations#diagnosing-preterm-prelabour-rupture-of-membranes-pprom>
- 日本看護協会 (2016). 看護統計資料. Retrieved from <https://www.nurse.or.jp/home/statistics/pdf/toukei03-2016.pdf>
- 日本産科婦人科学会(編) (2008). 産科婦人科用語集・用語解説集 改訂第二版, 224.
- 大槻 克文 (2009). 切迫早産の頸管長による予知・管理, 日本産科婦人科学会雑誌, 61(9), 264-268.
- 野崎 由賀, 丹波 国泰, 寺田 さなえ, 洲脇 尚子, 田中 ケイコ, 山本 千賀子, 横山 聡美 (2007). 当院での褥婦, 新生児家庭訪問実施後の意識調査, 岡山県母性衛生, 23, 33-34.
- 太田 創, 大場 智洋, 大槻 克文, 徳中 真由美 (2014). 切迫早産で安静の指示が出るのはなぜですか?, ペリネイタルケア, 33(3), 25-29.
- 酒井 由里, 佐藤 祥子, 大桐 規子, 加納 綾香 (2014). MFICU 入室を経験した切迫早産妊婦の分娩に至るまでの経験, 日本看護学会論文集: 母性看護, 44(1347-8230), 7-10.
- 佐々木 早重子 (2014). 産前訪問へ向けてのチームアプローチの実践 産前訪問に対する産婦人科・小児科スタッフの意識調査をもとに, 母性衛生, 55(3), 263.

総務省 (2013). 情報通信白書のポイント 第3節1章 超高齢社会の現状, Retrieved from

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h25/html/nc123110.html>

立花 桂, 鈴木 葉子, 鈴木 朋子, 西山 美穂, 立原 美代子, 前山 直美 (2008). 切迫早産妊婦のストレスコーピングに対する看護介入についての研究, 日本看護学会論文集 母性看護, (38), 127-129.

田中 幹二, 山本 義光, 二神 真行, 福井 敦史, 尾崎 浩士, 水沼 秀樹 (2004). 切迫早産の診断・管理・治療に関する文献的考察, 青森県臨床産婦人科医会, 19(2), 29-36.

THE AMERICAN CONGRESS OF OBSTETRICIANS AND GYNECOLOGISTS (2016).

Preterm Premature Labor and Birth, Retrieved from

<http://www.acog.org/Patients/FAQs/Preterm-Premature-Labor-and-Birth>

Urquhart C, Currell R, Harlow F, Callow L (2015). Home uterine monitoring for detecting preterm labor. Cochrane Database of Systematic Reviews. doi: 10.1002/14651858.CD006172.pub3

山本 真樹子, 高本 いく子, 小松 明日香, 森 圭子, 江島 仁子 (2002). 安静臥床切迫早産妊婦のために考案した体操の心理的効果 POM・STAI を用いての分析. 母性衛生, 43(1), 170-177.

山本 樹生 (2007). 切迫早産・早産. 日本産婦人科学会雑誌, 59(11), 666-670.